

家庭菜園



南部宮農センター園芸課
営農主幹 検校 哲也



Q 肥料をやると土は酸性になるのですか？

A ほとんど日本の土は酸性になっています。

日本は雨が多いので、土の中のカルシウムやマグネシウムなどの塩基類(アルカリ性の成分)が流されてしまいます。また、火山灰土壌は酸性になりやすい性質を持っています。

そして、化学肥料(硫安、塩安、塩化カリ、硫酸カリ等)を連用していると、作物が養分を吸ったあとに酸性成分(硫酸、塩酸)が残って酸性になります(図参照)。

① 肥料(硫安など)を施すと、窒素などの肥料成分が分解される過程で、土壌中のカルシウムやマグネシウムなどの塩基類が押し出され、雨などによって流れ出します。

② 施肥した硫安(硫酸アンモニウム)や尿素などのアンモニウムイオンは、一部は植物の養分になり、ほとんどが土壌中の微生物によって硝酸イオンに変化します。

③ この過程で水素イオンが発生します。

④ 硝酸イオンとアンモニウムイオンは植物の養分に使われます。

⑤ 土には水素イオンが残ります。結果、土壌が酸性に傾いてしまいます。

土壌酸度を上げてアルカリにするには、消石灰か苦土石灰を使います。作付け前に、1㎡当たり消石灰なら100g、苦土石灰なら150gをすきこみます。これで、pHを1程度上げられます。

消石灰は安価ですが、種子や苗に触れると障害を起こします。よく土になじませてください。苦土石灰は作用が緩やかで、そのままで神経質にならなくてもすみす。いずれの資材も、ふってから10日ほどは種まきや苗を植えるのは避けます。

土を耕すのに気持ちいい季節となりました。夏の実りを楽しみに菜園へ出かけましょう。

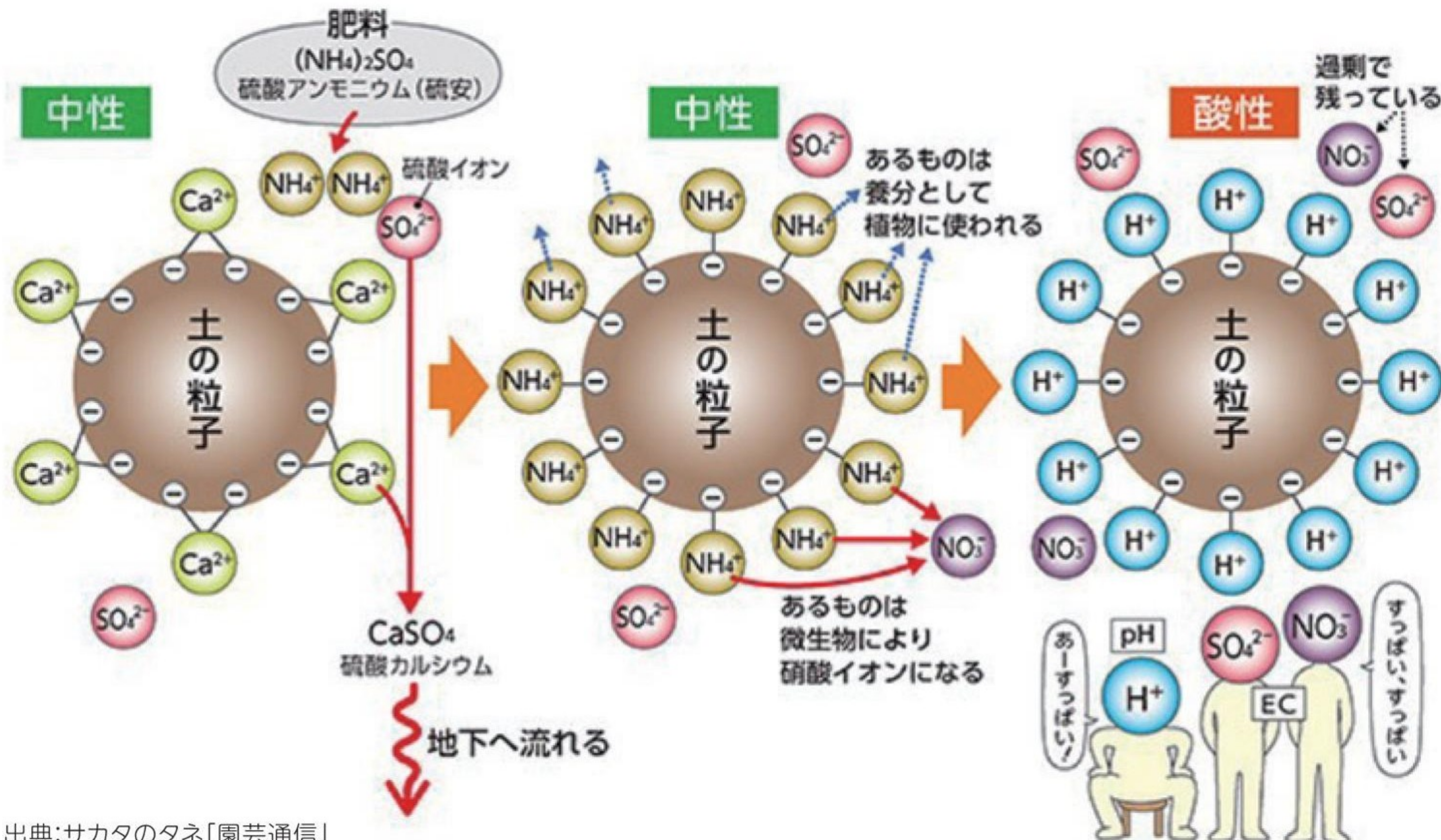
オンライン農業塾はこちら



管内の病害虫情報はコチラ



家庭菜園情報はコチラ



出典:サカタのタネ「園芸通信」